

2017年9月20日

鎌倉市長選立候補予定の皆様

図書館とともだち・鎌倉 代表 和田安弘

鎌倉市における図書館行政のあり方について（質問）

来る10月に行われる市長選に向けて連日奮闘されている立候補予定の皆様には敬意を表するとともに、これを機に鎌倉市の図書館行政に注目が集まり、図書館の充実につながることを期待しております。

私ども「図書館とともだち・鎌倉」は、市の図書館が市民とともに歩み、生涯学習の拠点となり、鎌倉の歴史遺産を次世代に継承する役割を果たすことを通じて街づくりの核となるように図書館と協働して活動することを目的にして、1998年に発足した団体です。

この目的を果たすために、これまで図書館創立100周年記念事業への協力、図書館振興基金の設立、市民協働事業の実施などの活動を行ってまいりました。

鎌倉の図書館の100年の歴史を振り返ると、1911年の創設および関東大震災後の再建はいずれも篤志家による寄付で賄われ、建物だけでなく蔵書も多くの市民の寄贈によってかたちづくられたという経緯があります。これを別の角度から見ると、鎌倉町の時代から市になってからも行政の図書館施策の弱さを心ある市民がカバーしてきた歴史でもあり、現在もこうした歴史的制約性から脱しきれておりません。

そこで今回の市長選にあたり、候補予定の皆様には以下の項目についてご意見を伺うとともに、当会のホームページ等でそれを市民に広く伝えたいと考え、このような公開質問状をお送りする次第です。

ご多忙中とは存じますが、ご回答は9月末日まで郵送またはメールにてご返送いただけるようお願い申し上げます。

連絡先：メールアドレスは、info@totomo.sakura.ne.jp

郵送は、〒●●●●-●●●● 鎌倉市●●●●●●●●●● 和田安弘 まで

記

1. 鎌倉市の文化・教育行政において図書館が担っている基本的な役割とは何であるとお考えになりますか。
2. 鎌倉市の図書館には5年単位のサービス計画はありますが、長期的な視野に立ったビジョンは確立されていません。昨年、当会では目指すべき鎌倉の将来像（ビジョン）の確立を求めて議会に陳情し採択されましたが（添付資料参照）、このことについてどうお考えでしょうか。

3. 市の図書館は他の同規模自治体と比較して、貸出密度(市の人口と貸出冊数の比)、予約処理件数、レファレンス件数などサービス面の数値は高いのですが、他方で資料購入費が低水準にあり、司書の新規採用が20年以上されておらず、施設の狭隘化・老朽化も進んでいるなどの問題を抱えています。図書館に関して現在求められている具体的な施策はどのようなものとお考えになりますか。
4. 昨今、図書館の管理運営について指定管理者制度の導入が広がりつつありますが、これについてどうお考えですか。あわせて、図書館が市の公共施設再編計画のなかに位置づけられています。これについてもお考えがあればお聞かせください。
5. 市の図書館は5館構想により各行政区に計画的に配置され、今のところ直営は維持されていますが、4つある地域図書館のうち玉縄、腰越の図書館を嘱託職員中心の運営体制に変えられようとしています(図書館ホームページの図書館協議会答申、付帯意見、意見書等参照 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/associ.html>)。これについてどうお考えになりますか。

以上